

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291600122		
法人名	社会福祉法人 ガイアの杜		
事業所名	グループホーム あいりん(1ユニットめ)		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和5年2月15日	外部評価結果確定日	令和5年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyosvoCd=4291600122-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを、人と人とのふれあいを大切に」をスローガンにいつでも、どこでも、誰からも必要とされ愛される施設作りに努め、日々地域福祉の向上の勤めています。「笑顔がいっぱい咲きますように」をテーマに掲げて表情豊に暮らす雰囲気作りを心がけ、一人ひとりがそのひとらしく暮らせる寄り添った支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コミュニケーションの困難なお客様は、他のお客様の輪から離れることが多く、職員が仲介してお客様の輪の中に入って頂き、話題の一つ提供する事により、お客様同士に話す機会が出来て、お客様に活気が生まれ意欲も出てきている。
 コロナ禍にありながら、島内にお住いのご家族様へ年末、年始と夏に管理者が挨拶に出向き、電話で伝え切れなかった事柄を直接伝え、ご家族様からもご要望を聞くなど、関係が継続できる関わり方を実践している。
 連絡ノートの内容が非常に詳細で、毎月お客様の変化を細かく記録しており、その情報をもとに、新たな介護計画に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングの壁に職員が意識できるように掲げてあり、共有し日々実践への取り組みとしてつなげている。	施設の理念は、法人設立時に開設者が福祉サービスに対する思いを施設の理念としている。コロナ禍においては行事が出来ない事が多く、人と人とのつながりが希薄になっていることが懸念される。理事長は毎月の幹部会議の時に理念に基づく福祉サービスの状況について思いを話しており、職員には会議を通じて伝えている。家族には、理念を大事にしたいという思いから、通常LINEやメールで報告しているが、年3回は手書きの手紙を書きご家族様に送っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、以前と比べ交流する機会を断念せざる負えないことが多かったが、その中で散歩時など挨拶を交わしてもらえるようにさせていただいています。	地域貢献活動の一つとして、法人内に「やせがらすの会」を発足しており、グループホーム周辺のトンネルや海岸周辺の清掃活動を行っている。近隣神社の祭りでは神輿を担いだり、昨年12月に地域で農業祭が開催され、グループホームから「龍踊り」が参加した。コロナ感染の終息を待って、グループホームの運動会に地域の方や隣の保育園の児童たちに参加してもらおうと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍となり、介護方法など地域に活かせる場、機会なかったが道端で苦しんでいる方、困っている方など日々の介護を通じて分積極的に声掛けができ、お礼の連絡を頂くことがあった。去年、地域への感謝を込めて打ち上げ花火をさせていただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍となり、会議の実施は行っていません。ただサービス向上の為、利用者のご家族に、連絡や訪問の際現状をお話した上で意見を聞いております。書面にて現状のお客様状況、行事、意見など交換している。	コロナ禍において対面での運営推進会議は行われていない。上五島町の監査においても、2ヶ月に1回開催するよう実地指導で口頭指摘を受けたとの事である。これまで運営推進会議に代わるものとして、ケアセンターWithを発行して行政やご家族様へ配付していた。他にもグループホーム全体で共有する情報は「連絡ノート」に記録しているので運営推進会議に活かしていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者の方とは必要な時に随時連絡を取り合っている。コロナ接種など連絡、連携にて訪問、設営スムーズに対応できた。	グループホームの行事を行う場合は、地区の郷長へ相談の上行っている。花見であれば郷長に言って場所を借りる、消防訓練時には非常サイレンを鳴らすので近隣の方々への周知をお願いしている。行政との関係については、入居、退去時の連絡を行い、新型コロナワクチン接種に関しては、グループホームで行っているため日程の調整を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵を掛けない、行動制限のないように見守り、安全確保しております。研修会などで身体拘束の意味を理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない実践については、指針に基づき、研修で職員への理解を深めていたが、運営規程第14条、利用契約書第28条に身体拘束の防止のための措置に関する事項を加え、これまで口頭にて説明していたことを文章化して説明し、よりご家族様へ丁寧に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ内で共通して拘束についての知識が認識できるよう話し合い、指導に取り組んでいます。言葉遣いや態度などスタッフ同士で注意し合うよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされるお客様は少ないが、研修会などに参加し学ぶ機会を設けています。制度が変わり次第、研修を通して共通認識の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項は丁寧に説明し、趣旨をご理解いただくよう務めています。利用中に料金の変更あれば随時連絡させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族には状況報告を行い、意見、要望があれば取り入れ実践に務めています。特に病院受診後の経過報告や行事の写真をLine、メールなどで伝えている。	ご家族様の要望の中には、高齢のお客様に自宅を見せたいとの要望があり、その時にはグループホームの職員が同行して希望を叶えてあげたいとの事である。現在お客様は話せる方がほとんどである。話をしていく中で要望を察知して支援に繋げている。中には話が苦手な方がいて一人になる事が多く、職員から話しかけ他のお客様の輪に入るように促したり、話すきっかけ作りを職員が行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全スタッフが情報を把握できるように連絡ノート設けて活用している。代表者、管理者からは回覧にて運営に対する思いが届き、スタッフの意見などは汲み取るようにしている。月一回ミーティングを行い職員一人一人の意見を述べる場を設けている。	毎月開催されるミーティングはユニット毎に行われ、ケース会議におけるお客様一人ひとりの状況を発表し、対応や幹部会議での伝達事項を周知している。内容についてはミーティングノートにまとめ、次期の介護計画更新時に活かすようにしており、職員全員が共有したものになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を考慮し条件の整備に務めている。希望の休みに添えるよう毎月希望を聞く。資格保有を目指し日頃から実践にて介助方法など学べるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小されていたり、中止されたりもあるが、社内で定期的研修などで知識を深め成長できるように取り組んでいる。病院と連携しリハビリの研修をおこなったがコロナ禍拡大により中止を余儀なくされる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で意見交換を行いサービスの質の向上に務めている。コロナ禍により機会は減っているがリモートで話し合いできるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学をして頂き、要望や質問に対応して不安がないように務めています。お客様が安心して暮らせるよう言葉かけし、孤立することがないように輪に入れる努力をすることの大切さを重んじるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問・ホーム見学して頂き、コミュニケーション、傾聴を大切に意見、要望などが相談しやすい関係作りにつとめています。初期段階ではこまめな連絡を維持している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向をしっかり受け止め納得できるサービスを利用できるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの習慣を尊重し、本人様の思いに寄り添った関係を築いて支援している。介護員と一緒にできる作業は同じ立場として不快に思われないよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近状報告にて健康状態や普段の生活の様子、ご本人の思いを把握して頂きお客様の生活が豊かなものになるよう協力いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会制限のため機会が減ってしまったが、Lineやメール、定期的に写真を同封し手紙にて関係を保つようしています。	コロナ感染状況に応じて、毎月第一金曜日に教会の神父様に来ていただきお祈りを願っている。土地柄もあり半数以上がカトリック教徒であり、お客様の気持ちを支えている。お客様やご家族様のご意向に寄り添い自宅やお墓へのドライブの他、紫陽花の季節に近くの教会の広場へ行ったりして関係継続の支援から、出来る限り行うようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様のひとりひとりの性格、疾患を把握し職員が潤滑剤となりえるよう関わりをもつように支援しています。トラブルが起きた際は介護員が即座に対応できるよう目が行き届くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談に応じるよう伝えている。お会いした際は、言葉をかけたりし関係性を大切にしています。ご自宅で看取りを希望の為退所された時は、様子を伺ったり、家族の支援のお手伝いをさせて頂きました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で意向・希望を引き出せるよう意識している。困難な方は言動、表情から思いを読み取るよう務めている。グループホームの中で生活を共にしている感覚なので認知症の悪化にて表現が難しい方などは汲み取るようにしている。	お客様の思いや意向を把握するグループホームの基本的なスタンスとして、「お客様はなぜこのようなことを言うのだろうか？」また、「お客様はなぜこのような行動をとるのだろうか？」という背景を考慮した支援を行っている。また意見を表出することが困難なお客様への対応として、事前にご家族様から情報収集することから始めて、入所後の生活の様子を職員皆で共有しながら、お客様の望む生活へ少しでも近づくことができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からききだしたり、本人様との会話通してこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録し、毎日職員間の連携、報告を常に忘れないようにしている。バイタルチェック、排泄表、食事摂取状況にて異変にきづけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人様の意向を尊重し、心身の状態、日々の生活の様子を把握し、現状に即した計画を作成している。定期的なミーティングの中で計画の見直し、検討、支援方法の改めなどおこなっている。	職員全員で介護計画書を作成するために、グループホームが特に重要視している情報収集源は「連絡ノート」の活用である。入所前の基本的な情報に基づいて初回の計画書を立案した後、その後の更新された計画書は、上記の連絡ノートに支援の際の留意点等を記して経過を確認している。その延長線上に6ヶ月に1回のモニタリングで総合的な状況確認を実施している。また、介護計画書の内容はグループホームの職員だけではなく、お客様やご家族様の意向、主治医からの情報提供等、可能な限り多くの関係者からの意見を集約して作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に即したケアの実践状況や経過、日々の様子から気づきを個別カルテに記録し、スタッフが常に確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行や通院など、ご家族が対応できない所の支援をしている。特にご家族が島外に対応が難しい方が多い為、支援は強くなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域行事への参加減ってしまっている。移動図書館を活用し、本人様の興味、趣味にあった本など借りています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医に現状の情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。また健康管理、異常の早期発見ができるよう連携につとめている。ご希望があればご家族同行受診している。	お客様の主治医選定に関しては、現状通りの方向で行くことによるメリットや、ご家族様にお願しなければならぬことをわかりやすく説明して、お客様やご家族様の意向を尊重した上で、最終的に合意形成を得ている。基本的に通院の際は看護師が同行するようになっている。お客様の小さな変化や気になる点を主治医に伝えている。受診の結果や申し送り事項は、連絡ノートに記したりご家族様に報告している。また、医療機関とは24時間連絡を取れる体制を構築しているため、夜間帯に異常等あった場合でも、職員は安心してお客様の支援にあたることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を設け、情報を把握し、異常があった際は、受診に動いて頂いてる。看護医療に対応できるようにしている。夜間時も連絡がとれる体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお客様が適切な医療、看護が受けられるよう情報提供書を作成している。入院中は定期定にご家族の変わりに洗濯物を取りに伺うようにしている。退院時にはお客様の現状を把握し、病院側から情報を得て対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医と話し合い、今後の終末期に向けた方針を取り決め、共有し支援している。	グループホームにおける重度化や看取りに関しては、「重度化(看取り)した場合における対応に係る指針」の内容に基づいてお客様またはご家族様と協議を重ねて方針を示している。重度化に関しては食事摂取量が急に減少してきたり、ウトウトする時間が長くなってきたら、先にご家族様や主治医に状況を報告して、今後の支援の在り方を早い段階で共有するようにしている。また、看取りに関しては現在のところグループホームでは実施していないが、看取り期に入ったお客様の支援に関しては主治医よりご家族様に現状を報告してもらい、最終的にどのような支援を提供するか協議を重ねて合意形成を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し熟知徹底するとともに研修の中で実践に早期対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な防災訓練の実施や近隣住民の方に協力体制を築いている。避難経路の確認、自然災害時の取り組みにも全員把握遂行できるようにしている。	消防計画及び自然災害等の防災計画について、書面で整備されていることは確認できて、両計画に基づく訓練の実施も記録より説明を受けた。また、地域との協力体制については、法人職員が地域の消防団に入団しているため、連携の取りやすい環境である。運営推進会議の場において訓練の報告や検証ができていないとのことであった。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で定期的な対面式の会議の開催ができなかったと想定されるが、今後は2カ月に1回定期的な開催の下、随時、避難訓練等の報告を期待する。また、消防設備の早期点検も早期対応が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを尊重し、お客様の権利・人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に務めている。	お客様を尊重した支援の実施について、職員への教育は以下のような手順で実施されている。①入職時に法人の方針を伝えて支援の在り方を理解する。②毎年度定期的に身体拘束や虐待防止、認知症ケア研修を開催して、お客様の疾患を理解した支援の理解を深化する。③日々の支援の中で、職員の言葉遣いが荒くなっている時や態度が良くない場合は、お互いに注意し合う風土熟成を目指している。④理事長が接遇面、お客様への対応について気があった場合は、FAX等で回覧が届くので、この文章を共有改善する。凡そ①～④の流れで適切な支援を実施するよう日々取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様の思いを表現できる自己決定できる環境作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のひとりひとりの趣味や生活のペースを把握してその人らしい暮らし、居心地のいい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類は選択できるよう言葉をかけている。こだわりや好み、これまでの習慣を尊重し、寄り添いながらいっしょに選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の嗜好にあった料理や季節感のある食事が提供できるよう務めている。彩りを工夫し、お客様それぞれにあった食事形態で対応している。できる方はいっしょに手伝ってもらったりしている。	食事を楽しむ支援として、2つの視点から実践状況を記載する。1つ目にお客様が入所する前にご自宅で行ってきた日常的な動作を、可能な限り無理強いすることなく、グループホームでも実施してもらおうことが考えられる。楽しむというよりも日常的にやっていた家事を行うことで意欲の向上に繋がったり、他のお客様との交流の機会が期待出来て、生活にメリハリが生まれる。2つ目は職員が献立作りの際にお客様の食べたいものを伺って、実際に提供したり、弁当を持って外出したり、おはぎを作って気分転換したり、実際の食事の場面での楽しみを作っている。また実費を負担の下、ジュースを購入してもらったり、食べたい、飲みたいという意欲を尊重した支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様ひとりひとりに合わせた食事形態、水分量の確保に努め、安全に食事が取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操をいっしょにし、食後にはお客様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。誤嚥しやすい方は飲水前、食前にも口腔スポンジを使用し、対応している。身体の低下されている方は毎食後口腔内吸引を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導、布パンツでの生活に取り組んでいる。温かいタオルでの清拭、陰洗に務めている。排泄能力が低下して見える方でも現状が維持できるよう支援していきたい。	排せつの失敗を極力削減する取組みとして、定時の排泄誘導は原則として、便の形状や消化の具合から下剤の調整をしたり、食事の形態を見直すようにしている。排せつの面で失敗するとお客様は精神的に落ち込む傾向にあるため、職員も気がけて声掛けして誘導したり、排せつを促している。また、夜間、内服薬の関係等でふらつくことにより、トイレまで移動することが困難なお客様は、夜間のみポータブルトイレをベッドサイドに設置して、排せつ面の自立を可能な限り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の水分摂取に牛乳を提供したり、ひとりひとりに応じた排泄パターン、水分量に配慮し予防に取り組んでいる。毎日体操を行っている。便の状況が誰でもわかるようにしている。薬の調整も出た量、形態に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が基本で行っている。ひとりひとりの好みの温度に配慮し、ヒートショックなど起きないように室温の安定保持に務めている。季節に応じて花湯やみかん、ゆずを用いて楽しんで頂くよう取り組んでいる。	グループホームでは基本的に毎日入浴できるように方針を立てている。お風呂が好きなお客様にとっては好評とのことであった。毎日身体の確認をすることもできて健康管理の側面からも望ましいと言える。毎日入浴できる楽しみの他、湯温を好みに設定したり、お客様の好きな洗剤を個人購入の下自由に使ったり、職員とゆっくり会話したり、様々な面から楽しみを見つけている。また、入浴をあまり好まないお客様でも、毎日お誘いの介護を実施していることから、日々声をかけ続けることで、自然と入浴ができるようになるとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に寄り添った休息の支援を行い、室温の調節、寝具の調整、照明の調節にて安眠できるようにしている。日中活動を増やし昼夜逆転しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はお客様の疾患を理解たうえで薬の内容を把握し服薬対応に取り組んでいる。服薬時は服薬ファイルを用いて、名前、個数を確認の為読み上げ、誤薬防止に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、新聞折りなど毎日お客様の力量に応じた役割、楽しみを見出せるよう支援している。地域的な懐かしみのあるおやつ、季節を感じさせるおやつなど提供し当時の思い出、エピソードトークに花を咲かせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様、ご家族様の希望で支援している。コロナ禍により外出は減っているが近隣の散歩、神社の参拝など支援している。	他のグループホーム同様に、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日常的な外出に関しては、グループホーム近隣の散歩程度しか実施できなかったとのことである。しかも人の少ない時間帯や場所に制限もあったため、今後、感染リスクが下がってきたら、以前のように散歩がてら学校や保育園の近くに行ったり、お買い物に行ったり、以前の日常を取り戻したいとのことであった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に応じて買い物をしてきたり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に寄り添い電話で話したり、年賀状、手紙を書く援助など支援している。家族より電話あればお話できるようにしている。コロナ禍もあり携帯のテレビ電話を用いたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビングなど季節を感じていただけるよう壁紙、飾り付けを毎月行っている。室温、湿度の調節はこまめに行い、寒さを感じる方はひざ掛けをもちい、配慮に心がけている。コロナ禍によりお客様との空間を設けている。	グループホームは建物の2階にあるため、良く陽が射して明るい印象であった。また壁には季節感を味わえるように季節の飾り物を貼っており、これらの作品はお客様がアクティビティ(余暇活動)の一環として作成されているとのことであった。訪問当日は春ということで、ひな祭りや桜が飾ってあった。共用部分の感染対策として、アクリルパーテーションや加湿器の設置、消毒、換気を徹底しているとのことであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着いた場所でテレビを見たり本を読んだりしている。また気のあった方同士で談笑したりして過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置いたり、ご仏壇を置いたり、使用していた家具を使ったりご自宅に近い雰囲気でも過ごせる工夫をしている。ご家族の写真飾られているかたもいる。	居室それぞれに担当の職員がいるということで、それぞれの個性が表れている印象であった。またご自宅からの持ち込みに関しては、基本的に危険が伴う品目を除いて自由に搬入可能とのことであった。使い慣れた、また、見慣れた家具や写真、お客様の趣味として集めていたもの等があると、空間として落ち着く傾向にあるとのことであった。一方、飾り付け等を行うことでそれらを口の中に入れたり、夜間ずっと気になって外したりするお客様も中にはいるとのことで、ケースバイケースの対応を取っている。居室の中のベッドサイドの手すりにクッション材を巻いたり、ポータブルトイレを使用する際に足が滑らないように滑り止めマットを設置したり、お客様の身体症状に合わせた配慮を数ヶ所確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など考え安全に生活がおくれるように工夫している。身体状況にあわせた環境作りをしている。認知症の重度の方は危険がないよう危険予測出来るものは取り払っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291600122		
法人名	社会福祉法人 ガイアの杜		
事業所名	グループホーム あいりん(2ユニットめ)		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和5年2月15日	外部評価結果確定日	令和5年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」との理念のもと、お客様、一人ひとりが笑顔で安心、安全な生活ができるよう支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4291600122-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年3月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を誰もが見える場所に提示し、共有して実践につなげるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加するなど交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合、支援方法をアドバイスするなど行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、身体拘束をしないよう取り組みながら、事故につながらないようにケアを心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないよう注意を払い、皮下出血など出来ている場合などは、ミーティングのときに話し合い、防止に努めている。また言葉の虐待がないよう注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて権利擁護について学んでおり、現在、必要性はないが、今後、必要性が出れば、活用出来るよう取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定があった場合、説明を行い、疑問、質問がないか尋ね、理解、納得をさせていただきよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様に面会に来られた時などにお話を伺い、今後運営につなげている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常でも意見、提案などを聞いていただき、今後につなげてもらっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、やりがいや向上心をもてる職場になるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修など行われ、実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部の研修などが減っており、交流があまり出来ていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の気持ちに寄り添い、話を聞く時間を設け、安心出来る関係性が出来るように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望などを聞いたりし、信頼関係が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報を元に本人様、ご家族が必要とされている事を見極め、サービス出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間の中で、出来る事出来ない事を見極めて、出来る事を他のお客様とも楽しく行えるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告したり、本人様の意思を伝えるなどして絆を大切に、情報の共有を行い、共に支える関係を築くように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カトリックの方に神父様が来館されるなど馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めているがコロナの影響により、出来ない事が多くなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様が出来る事を他のお客様と一緒に 行ったり、関わりが持てるように間に入ったりして、支援するよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係性を大切にし、状況を聞いたり、相談を受けるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望、意見が聞かれた場合は、希望に添える対応が出来るように話し合い、支援を行えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様との関わりをしっかりと持ち、その中で馴染みの事や物を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のお客様の状態、状況を関わりを持つ事で把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の変化や課題などミーティングで話し合い、適切な介護が出来る為の計画を作るように心掛けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個人記録を記入し、気になる事や注意・変化があった時などは連絡ノートで情報を共有し、介護計画に活かせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況にあったサービスが出来るように話しあい、取り組めるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの生活歴を把握する事で地域資源も把握し、安全に楽しく生活出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様の体調を把握し、お客様、ご家族の要望に応じて、適切な受診を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にお客様の変化などを報告や相談して、適切な受診が受けられるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどの提供を行っている。又、ケアマネを通して、早期退院が出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と話し合い、今後の方針を決め、共有し、支援するよう取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の際、きちんと対応出来るよう話し合い、訓練行っているため、実践力を身につけるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施し、自主防火点検を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様を尊重した声かけを心がけ、声かけがきつい、対応が悪い、慣れ合った声かけが聞かれた場合は職員同士で注意しあうようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が意思を伝えやすいような対応が出来るように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望に添える支援を心がけてはいるが、急に外出したい等の希望には、こちらの都合に合わせてしまう為、注意していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の希望により髪を染めたり、好みのおしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の好みを把握し、それに応じた食事を出したり、一緒に調理手伝いをして頂いたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態・状況を把握し、それに沿って、食事量、水分量、食事形態をかえて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様の口腔状態を把握し、毎食後、お客様、一人ひとりに応じた口腔ケアをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行うなどの支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食事形態を変えたり、水分や量を変更して対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の好みに合わせたお湯の温度にしたりして、楽しく入浴が出来るように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間も気持ち良く眠れるよう、休息も取り入れながらアクティブで体を動かすなどの活動を行うよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、副作用をしっかり理解し、薬が変更にしたり、量が変わった時は変化がないか観察を強化するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の楽しみや嗜好を把握し、出来る事を活かしながら、家事手伝いをお願いしたり、気分転換が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の希望があった場合やお客様の希望に添って、外出支援が出来るように支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に応じて買い物の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様から希望があった場合、取り次いだり、贈り物があった時などは、本人様に声かけし、電話が出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた空間づくりを心がけ、不快にならないよう配慮するなど工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に会う人、合わない人等考え、席のセッティングを行ったりして、居心地良く過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の使い慣れた物を飾ったり、ご家族からのプレゼントを飾ったりし、居心地良くなるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、出来る事を活かしながら、自立した生活出来るよう心がけている		